

第二回小学生作文コンクール「海外に紹介したい日本のこと」
へ入選…高学年の部

日本人のゆずれる心

山梨学院小学校 五年 三森 美涼

私が、お祭りに行った時のことだった。

私はお祭りに出ている馬が見たかった。だけど、前に大人がたくさんいて、全く見えなかった。

「見たかったな。」

私が小さい声でつぶやいた。私は、がんばって見ようとしていた。

その時、前にいた大人が、

「ここで見ていいですよ。」

と言って場所をゆずってくれた。

「ありがとうございます。」

そう言って私は、前に行った。私は、馬が見ることができてとてもうれしく感じた。だが、ゆずってくれた大人はどうなのかと思った。その大人は、子連れだったのだ。だから、子供は見えなくなってしまうと思った。だけど、その大人は、子供をおぶっていた。

私はすごくやさしい人だと思った。その時、私はその大人と目が合った。そして、

「そこで大丈夫でしたか。」

と言ってくれた。私は、

「はい。本当にありがとうございます。」

と言った。

「大丈夫ですよ。」

大人は、そう言うにつこり笑ってくれた。

私は日本人の「ゆずれる心」を海外の人達に、しょう介したいと思った。自分が最初にそこにいたとしても他の人にゆずるのはかんとんには、出来ないと思う。だけど、それが出来るのは日本人だからこそだと思う。そして、日本人は、ゆずるのがとても大事だとい

うことを分かっているのだと私は思う。私の身近にいる人でも、友達をゆずっている人が多い。こういう人がいるからこそトラブルがおこらないのだと思う。ゆずる心があると、人を良い気持ちに出来る。それに、平和でいることが出来ると思う。だから、ゆずれる心はとても大事だという事をわすれないようにしていきたいと私は思う。